

# 子どもがかかりやすい感染症のしおり

H25.4 福井市子育て支援室

病名	病原体	感染経路	潜伏期間	症 状	登園のめやす
咽頭結膜熱 (プール熱)	アデノウイルス(3、4、7、11型)	飛沫感染 接触感染	5~7日	39度前後の発熱、咽頭発赤、咽頭痛、結膜の充血、目やに、夏季に多い	症状が消退した後2日を経過するまで(治った後も便の中にウイルスが30日程度排出されるのでおむつの取扱いに注意する)
インフルエンザ	インフルエンザウイルス	飛沫感染 接触感染	1~3日 (平均2日)	悪寒、戦慄、突然の高熱、咽頭痛、関節筋肉痛。〈合併症〉肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳症	発症後最低5日間かつ解熱した後3日を経過するまで
結核	結核菌	空気感染	感染後1~2か月でツベルクリン反応が陽転し、その後3か月以降、一生にわたり約30%の既感染者に発病がみられる。	咳、痰、発熱。乳幼児では重症結核(粟粒結核、結核性髄膜炎)になる可能性がある。	医師により感染のおそれなくなったと認められるまで
水痘 (みずぼうそう)	水痘・帯状疱疹ウイルス	空気感染 飛沫感染 接触感染	11~21日	点状発疹、水疱、かさぶたが混在して全身至るところに出る。発疹はかゆみが強い。	すべての発疹がかさぶたになるまで
百日咳	百日咳菌	飛沫感染 接触感染	7~10日	感冒様症状からはじまる。次第に咳が強くなり、1~2週で特有の咳発作になる。咳は夜間に悪化する。合併症がない限り、発熱は少ない。	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること(抗菌薬を決められた期間服用する。7日間服用後は医師の指示に従う)。
風疹 (三日はしか)	風疹ウイルス	飛沫感染 接触感染	14~21日 (通常16~18日)	発熱と同時に淡紅色の発疹(顔・身体)、後頭部・頸部リンパ節の腫れ。発疹は2~3日で消失。	発疹が消えるまで
麻疹 (はしか)	麻疹ウイルス	空気感染 飛沫感染 接触感染	10~12日	発熱・咳・鼻水・目やに等。熱が一時下がるとコプリック斑(口腔内粘膜に白い斑点)、次いで高熱(39℃前後)と全身発疹。	解熱後3日を経過するまで
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	ムンプスウイルス	飛沫感染 接触感染	14~24日 (通常18日前後)	耳下腺の腫れ・痛み、頭痛、発熱(中度)	耳下腺の腫れが消えるまで
流行性角結膜炎 (はやり目)	アデノウイルス8、19、37型	接触感染	5~12日	目・まぶたの結膜の充血、目やに	症状が消失してから
腸管出血性大腸菌感染症	ベロ毒素産生性大腸菌(0157、026、0111)	経口感染 接触感染	3~8日	激しい腹痛、頻回の水様下痢、さらに血便。発熱は軽度。	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
ウイルス性肝炎	A型 A型肝炎ウイルス	糞口感染	14~40日	発熱、全身倦怠、食欲不振、悪心、嘔吐、黄疸	肝機能が正常であること。
	B型 B型肝炎ウイルス	血液や体液を介して感染 母子感染	50~180日	極めて強い全身倦怠、発熱、食欲不振、黄疸 慢性肝炎では、自覚症状は少ない	急性肝炎の場合、症状が回復し、全身状態がないこと。キャリア・慢性肝炎の場合は、登園制限はない。

アタマジラミ	アタマジラミ	頭髪から頭髪への直接接触や衣服や寝具を介する感染	10～14日	小児では多くが無症状（耳の後ろ、後頭部の痒み、不眠、いらつきの原因になることがある）	駆除を開始していること。
手足口病	コクサッキーウイルスA16型 エンテロウイルス71型	飛沫感染 糞口感染 接触感染	2～5日	水疱性の発疹が、口腔、手のひら・足の裏・肘・臀部に現れる。発熱は軽度。	発熱がなく（解熱後1日以上経過し、）普段の食事ができること（回復後も2～4週、便からウイルスが排出されるのでおむつの取扱には注意する）。
伝染性紅斑（りんご病）	ヒトパルボウイルスB19	飛沫感染	10～20日	軽い風邪症状後、頬が赤くなったり、手足に網目状の紅斑が出現。発疹が治っても、直射日光や、入浴で発疹が再発することがある。（稀に妊婦の罹患により流産や胎児水腫がおこることがある。）	全身状態がよいこと（紅斑が出現する頃には感染力はなくなる）。
伝染性軟属腫（水いぼ）	伝染性軟属腫ウイルス	接触感染	2～7週間	直径1～3mmの半球状で中央にくぼみのあるいぼ。	搔きこわし傷から浸出液が出ているときは覆うこと。
伝染性膿痂疹（とびひ）	黄色ブドウ球菌 溶血連鎖球菌	虫さされ、すり傷等からの菌の侵入 接触感染	2～10日	湿疹や虫刺され後を掻いた部分に細菌感染を起こし、水疱が化膿し、びらん・かさぶたをつくる。	皮疹が乾燥しているか、乾燥していなければ覆うことができる程度のものであること。
ヘルパンギーナ	A群コクサッキーウイルス、エコーウイルス	飛沫感染 接触感染 糞口感染	2～4日	発熱（1～3日）、咽頭痛、口腔内の水疱・潰瘍。	発熱がなく（解熱後1日以上経過し）、普段の食事ができること（回復後も2～4週間、便からウイルスが排出されるのでおむつの取扱には注意する）。
ヘルペス口内炎	単純ヘルペスウイルス	接触感染	3～7日	口内炎。治癒後は潜伏感染し、体調不良時にウイルスの再活性化が起こり、口角・口唇の皮膚の移行部に水疱ができる。	発熱がなく、よだれが止まり、普段の食事ができること。
マイコプラズマ肺炎	マイコプラズマ・ニューモニア	飛沫感染 接触感染	10～21日	咳が徐々に激しくなり、解熱後も3～4週間咳が続く。肺炎にしては元気で、一般状態は悪くない。	発熱や激しい咳が治まっていること。
感染性胃腸炎（ウイルス性胃腸炎）	ノロウイルス ロタウイルス アデノウイルス等	糞口感染 接触感染 食品媒介感染	1～3日	発熱、下痢、嘔吐	嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事ができること。
溶連菌感染症	溶血性連鎖球菌	飛沫感染	2～5日	突然の発熱、咽頭痛、痒みのある粟粒大の発疹	抗生薬内服後24～48時間経過していること。治療の継続必要。
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus (RSV)	飛沫感染 接触感染	通常3～8日（乳児では3～4週間）	発熱、鼻汁、咳、喘鳴、呼吸困難、冬季に流行。生後6か月未満の児は重症化しやすい。	咳や喘鳴などの呼吸器症状がなく、全身状態が良いこと

※『保育所における感染症対策のガイドライン』（平成24年11月改訂：厚生労働省）より抜粋

※感染経路の注釈

飛沫感染：感染している人が咳やくしゃみをした際に、口から飛ぶ病原体がたくさん含まれた小さな水滴（飛沫）を近くにいる人が吸い込むことで感染する。

経口感染：菌で汚染された水・食物や感染者の便等に含まれる病原体が、直接口から体内に入り感染する。

接触感染：感染者に直接に接触する場合（直接感染）と病原体に汚染されて物品（食器類、衣類など）や汚染された手からうつる場合（間接感染）とがある。

空気感染：感染している人が咳やくしゃみをした際に、口から飛び出した飛沫が乾燥し、その芯となっている病原体が感染性を保ったまま空気の流れによって拡散し、近くの人だけでなく、遠くにいる人もそれを吸い込んで感染する。

糞口感染・・・糞から出た病原体を口から摂取することによって感染する。

★ 症状・経過に異なることがあるので、医師の治療を受け、その指示に従ってください。